

研究構想

時代・社会の要請

- ・高度情報化社会
- ・学習の基盤となる資質・能力として位置づけられる情報活用能力

学校教育目標

チャレンジする子

もっと高く・もっと広く・もっと深く

児童の実態

教師・保護者の願い

- ・知的好奇心があり、知識が豊富
- ・情報活用の充実
- ・学びの質や深まりの重視

目指す児童像

学びを深め チャレンジする子

研究主題

学びを深めチャレンジする児童を育てる

— 情報活用能力の育成を通して —

仮説

児童の情報活用能力を育成ことによって、各教科等の学習が充実し、結果、学びを深め、チャレンジする児童が育つだろう。

研究の目的

発達段階に応じた情報活用能力を明らかにし、児童の情報活用能力を育成することによって各教科等の学習を充実させ、学びを深めチャレンジする児童を育てる。

研究の内容と方法（2年間）

- 1 先行研究や講師からの指導助言を基に基礎研究を行い、一日小の児童に育む情報活用能力とは何かを明らかにし、全教職員で共有する。（一日小の情報活用能力の定義）
- 2 実践に関わる情報を収集し、情報活用能力を育む授業の具現を探る。（資料の収集・紹介・共有・校内研修の実施）
- 3 情報活用能力を育成するカリキュラムを作成し、次年度の授業計画を立てる。（情報活用能力を基盤とした年間指導計画の作成）
- 4 カリキュラムを基に授業実践を行い、カリキュラムの評価、改善をし、次年度の指導計画を作成する。（カリキュラムの評価、改善）
- 5 校内研修・研究授業を行ったり、外部機関と連携したりして、情報活用能力を育むための指導方法を研究し、まとめる。（指導方法）
- 6 児童の情報活用能力を育むための校内環境整備を進め、人的・物的体制を整える。（環境づくり）
- 7 本校児童の情報活用能力に関する実態を調査し、その後の指導改善に生かす。（実態調査）

2 研究の目的と内容・方法

本研究の目的は、発達段階に応じた情報活用能力を明らかにし、児童の情報活用能力を育成するによって各教科等の学習を充実させ、学びを深めチャレンジする児童を育成することである。そこで、次のような計画を立て、研究を進めることにした。

1 年目

- ・研究主題を設定し、研究構想図を作成し、研究の方向性を共有する。
(研究構想図の作成)
- ・先行研究や講師からの指導助言を基に基礎研究を行い、一日小の児童に育む情報活用能力とは何かを明らかにし、全教職員で共有する。
(一日小の情報活用能力の定義)
- ・資料や校内研修、今までの授業の振り返りを基に、情報活用能力や情報活用能力を育成する授業実践に関わる情報を収集し、情報活用能力を育む授業の具現を探る。
(資料の収集・紹介・共有・校内研修の実施)
- ・情報活用能力を育成するカリキュラムを作成し、次年度の授業計画を立てる。
(情報活用能力を基盤とした年間指導計画の作成)
- ・児童の情報活用能力を育むための人的・物的体制を整える。
(組織・役割の検討・機材等の確認・購入・設定)

2 年目以降

- ・校内組織を再編成する。
(組織)
- ・1年目の教育課程を基に授業実践を行い、評価、改善を行う。
(カリキュラム)
- ・校内環境整備を進め、人的・物的体制の評価・改善を行う。
(環境)
- ・校内研修・研究授業を行ったり外部機関と連携したりし研究を深める。
(指導内容・方法の開発改善)
- ・本校児童の情報活用能力に関する実態を調査する。
(実態調査)
- ・研究を振り返り、カリキュラムの評価・改善を行う。
(まとめ)